

系所組別： 法律學系甲、丙組

考試科目： 日文

考試日期： 0226，節次： 4

中譯日 (40%)

- 1、公司      2、卡通      3、報紙      4、釣魚台      5、福島海嘯

日譯中 (60%)

東都明京、開国立家。  
とあり、続いて、

承天府、安平鎮、本藩暫建都於此。

と見えるように、地理的概念がはっきりとしない。上引の文意を整理すれば、広義の赤嵌（即ち台湾島）を東都と改め、これを国号となし、狭義の赤嵌（即ち旧プロフィシア町）を承天府と改称して首都となし、南北に各一県を設け、それぞれ天興・万年と称する、ということにほかならない。

承天府の命名は、南明の唐王朱聿鍵が天興府（福建福州を改め）を、桂王朱由榔が安龍府（一に安隆ともいう、安籠守禦所を改め）を設けたことと軌を一にするものである。

また、承天府の長官が尹（初代は楊朝棟）である点も注目されてよい。帝王の居する地方が帝都・王都であり、その長官を尹と称するのは唐にはじまり、これは明の応天・順天、清の順天・奉天の例を引くまでもないことであろう。承天が鄭氏王国の首都であることを内外に示したものであると言つてよい。

鄭經時代の一六六四年に東都の名を東寧と改め、天興・万年の名をそのままにして、県から州に昇格している。理由は不明であるが、東都は一に東都明京とも記されているように、故明の残影が漂よっており、鄭經はこれを拭拭しようとしたのではないかと思われる。ちようど大陸周辺の地を完全に放棄した直後であり、これには政治家陳永華の意向も反映されているものと推定される。